

NTVP、フィスコ、ABBALab のファンドが 日本初となる仮想通貨と ICO トークンへ の直接投資を開始

— XEM などの新興仮想通貨やテックビューロ社の ICO 案件トークンにも直接投資 —

報道関係者各位

日本テクノロジーベンチャーパートナーズ（東京都世田谷区、ジェネラルパートナー：村口和孝、以下 NTVP）、株式会社フィスコ（東京都港区、代表取締役：狩野仁志、以下フィスコ）、及び株式会社 ABBALab（東京都港区、代表取締役：小笠原治、以下 ABBALab）は、日本の投資ファンドとしては初となる、仮想通貨と ICO トークンへの直接投資を開始いたしました。ビットコインだけではなく、XEM といった急成長を見せる新興仮想通貨や、テックビューロ（大阪府大阪市、代表取締役：朝山貴生、以下テックビューロ）が提供する ICO ソリューション「COMSA」にて発行される企業のトークンも投資対象といたします。

背景

2009 年から 8 年の年月を掛けて時価総額が 3 兆円まで達した仮想通貨は、2017 年 4 月から法定通貨からの流入が加速し、その後の数ヶ月間で最大 12 兆円までと加速的に成長を遂げました。仮想通貨の代表格として、ビットコインの価格は 2 年間で約 3 万円から約 30 万円へと 1,000% の増加を見せましたが、新興通貨に関しましても、NEM プロジェクトの通貨 XEM など時価総額が約 2 億円から約 2,000 億円と 100,000% の成長を記録したものも存在します。

一方、世界のブロックチェーン業界では、2017 年 6 月の時点で過去 12 ヶ月間の ICO（Initial Coin Offering - 仮想通貨発行による資金調達手法）による資金調達総額が、ベンチャーキャピタルによるそれを大幅に上回りました。そのような中、米パンテラキャピタル社のように、企業が ICO で発行するトークンへの投資を専門に 1 億ドルものファンドを組成するベンチャーキャピタルも現れてまいりました。

そして 2018 年度には、法定通貨から仮想通貨への更なる流入が見込まれ、時価総額の短期的な上下は見られるものの、中長期的にはこの成長トレンドが継続するものと思われれます。

仮想通貨への直接投資

その流れを受けて、NTVP、フィスコ、ABBALabの3社は、ビットコインや新興通貨 XEM といった仮想通貨に加え、テックビューロとその ICO 顧客が「COMSA」ソリューションを用いて発行するトークンに対しても直接投資を開始いたします。

NTVP はテックビューロのシード投資家であり、国内における、暗号通貨やブロックチェーン関連スタートアップ企業への VC 投資家としては先駆けとなります。この度、その投資対象を対企業だけでなく、仮想通貨や「COMSA」の ICO 案件にまで拡大いたします。

NTVP ジェネラルパートナーの村口和孝は「NTVP ではこれまで DeNA など日本のスタートアップ企業に対して株式を使って、投資を長期で実現して、発展を支援してきました。音楽でいえばクラシック音楽です。20 世紀の株式による資本を増加する方法である VC 投資と IPO に対し、ICO は、ロックの登場です。ICO は 21 世紀のフィンテック時代における、事業実現に向けての新しい実に有効な資本調達手段だと考えています。NTVP はこれまでの株式のガバナンスを有効な支援方法とする方法に対し、ICO ではトークン市場での会社発展エコシステムにトークンホルダーとして VC として事業発展に関与します。そこでは、NTVP は、トークンをいかに保有し、いかにトークン発行会社の ICO で実現しようとしている事業ビジョンの実現を支援するかが、ICO に関与する VC としての役割になるでしょう。もちろん、NTVP では、従来の IPO を狙うスタートアップ企業に対するクラシック株式投資も継続しますし、それがすべて ICO のエレキギターによるロックに置き換わる訳ではありません。21 世紀は IPO クラシックと ICO ロックと二つのエコシステムが互いに協調しながら経済社会のフロンティア領域において、新しい経済のスターを生み出す二つのエンジンになる日が近いと考えています。ロックが最初不良の音楽とみなされたように、社会が受け入れるには十年くらいかかるかもしれませんが、ICO からエルビスプレスリーやビートルズ、さらにはマイケルジャクソンが誕生する日も近いと NTVP では考えています。」とコメントしております。

フィスコは、傘下のグループ会社を通じて仮想通貨専門の投資ファンド「FISCO Crypto Currency Fund (仮称)」を 10 億円規模で組成し、ビットコインを始め、XEM を始めとする新興通貨、「COMSA」における ICO 案件に直接投資いたします。

フィスコ代表取締役の狩野仁志は、「私たちフィスコは金融情報コンテンツプロバイダーとして、これまで投資家の皆様には株式、為替、金利等、様々な金融情報をご提供し、最良の投資支援サービスを行なって参りました。私たちは、中立公正な立場から投資家の皆様にとって有意義な情報を提供することで、合理的な金融市場形成に寄与してきたものと自負しております。私たちは現在すでに仮想通貨に関する投資情報の配信を開始しておりますが、この新市場においてははまだそのような合理的な市場は形成されておられません。今回、私たちがグループ傘下のファンドを通じて、自ら仮想通貨へ直接投資を行うことは、その立場と役割こそ違え、合理的な市場形成に寄与するという使命は同じです。私たちが XEM をはじめとする将来有望な仮想通貨や ICO トークンへ積極的に投資することで、他の投資家に対する超過利潤を得ることに何のためらいもありません。自らがプレイヤーとなり、そのパフォーマンスを実現し、市場に示していくことは、私たちがその使命を遂行する上でもっとも効率的かつ効果的な方法論であろうと考えています。今後の私たちの投資パフォーマンスには是非ご期待頂ければと思っております。」とコメントしております。

ABBALab は、その投資対象を企業から仮想通貨へ広げるほか、同社が支援する IoT の分野を中心として、企業が「COMSA」の ICO にて発行するトークンにも積極的に投資いたします。

ABBALab の代表取締役である小笠原治は「ABBALab inc. は日本都銀・商社・インフラ事業者、台湾 EMS などを LP に迎え日米の IoT プロダクトやサービスに取り組むスタートアップへ投資するファンドを運営しており、ファンド組成 18 ヶ月で量産販売開始 4 社、数十億円規模の日本大手 SNS 事業者へのセル・アウトを含む EXIT を 2 社輩出しております。さらに投資パフォーマンスを上げていくべく IoT スタートアップの既存の資金調達・EXIT 戦略に寄らず、投資先の ICO 支援をはじめとして COMSA を積極的に利用し XEM を軸に有望な暗号通貨に投資を行い、ICO プロジェクトへの参加を進めてまいります。」とコメントしています。

これら投資家の発言を受け、テックビューロの代表取締役である朝山貴生は、「ブロックチェーン技術がそうであったように、ICO も既存のインフラやスキーム、当事者をディスラプトすると思われるがちですが、そうではありません。この ICO を積極的に取り込んでいく投資家や企業が、そうでない者達をディスラプトするものと考えています。ICO は既存の投資スキームと共存して、更に新しく強力な仕組みとして膨らんでいくと思われれます。そのような中、国内でも先進的な VC や投資ファンドに弊社の COMSA や仮想通貨の文化を評価していただき誠に光栄です。」とコメントしています。

ICO とは

ICO とは「Initial Coin Offering」の略であり、トークンを発行して売り出すことによって資金を調達するための手法を指します。しかし、実質的には株式などのエクイティを譲渡するのではなく、購入型のクラウドファンディングと同様に単にトークン販売を行うものであり、厳密に言えば「資金調達」の手法ではなく「トークンの発行販売手法」となります。購入する側も、実際にはプロジェクトに投資をする「投資家」ではなく、「トークン購入者」となります。

■ 「日本テクノロジーベンチャーパートナーズ」について（ Web サイト <http://ntvp.com/> ）

日本テクノロジーベンチャーパートナーズ（NTVP）は、独立系 VC の先駆けとして 1998 年に設立され、DeNA やインフォテリアの創業期に投資をしたシード支援 VC として有名です。最近では、本格的ブロックチェーン技術と高機能暗号通貨取引所を持つテックビューロ社や、協働型ロボットのライフロボティクス社、ビッグデータのグラフ社、MBD（モデルベース開発）モーデック社などに投資しています。ICO を使って事業を立ち上げ成長しようとする新しいスタートアップベンチャーの発行するトークン投資にも、今後注力を表明しています。

■ 「株式会社フィスコ」について（ Web サイト <http://www.fisco.co.jp/> ）

フィスコは日本の金融情報ベンダーであり、QUICK 社、ロイター社、ブルームバーグ社等の専用端末、Yahoo!、MSN、InfoSeek 等のインターネットポータルサイト、および多数の証券会社に多くの投資情報コンテンツを提供しています。フィスコは投資と相場への深い理解と洞察に基づき、投資

家向けに最良の投資支援サービスを提供するプロフェッショナル集団です。また、「COMSA」のパートナーとして、ICO 関連情報の配信を予定しています。

■「株式会社 ABBALab」について（ Web サイト <http://ABBALab.com/> ）

ABBALab は IoT ハードウェアとそれに付帯するサービス並びに関連技術を事業化するスタートアップに対してプロトタイプフェイズから投資を行い、その成長を支援するアクセラレーターです。好きなキャラクターと一緒に暮らせる世界初のバーチャルホームロボットを開発している GATEBOX 社*をはじめとして、不動産賃貸業務の効率化に臨むコネクティッド・ロックの tsumug 社、安定品質の米作を可能とするスマート水門に取り組む笑農和社、人の行動によって生じる体内変化を可視化する Arblet 社等に投資を行なってきました。ABBALab は IoT/ハードウェアに取り組むスタートアップの ICO を支援していきます。*2017 年 3 月に東証一部上場企業の連結子会社となっています。

■「テックビューロ株式会社」について（ Web サイト <http://techbureau.jp/> ）

テックビューロは、暗号通貨技術とブロックチェーン技術に関するソフトウェアとサービスを開発しているクリプト・フィンテック・ラボ（Crypto-Fintech Lab.）です。プライベートブロックチェーン製品「mijin」と仮想通貨取引所「Zaif」の他、ブロックチェーン技術導入の受託開発や ICO ソリューション「COMSA」を提供しております。

【お問い合わせ先（報道機関窓口）】

日本テクノロジーベンチャーパートナーズ 担当：村口大和 TEL:03-5758-1311

株式会社フィスコ 担当：田代 TEL:03(5774)2463 / E-mail: support@fisco.co.jp

株式会社 ABBALab 担当：縣(あがた) E-mail: niki@ABBALab.com

テックビューロ株式会社 担当：藤田 TEL:06(6533)2230 / E-mail: pr@techbureau.jp

本文中の商品名は、各社の商標または登録商標です。